

名勝天龍峡ガイダンス施設整備等について

産業経済部観光課

教育委員会生涯学習・スポーツ課

1. ガイダンス施設整備の経過等

- ・三遠南信自動車道天龍峡大橋建設に係る「名勝天龍峡」の文化庁との現状変更等協議において、飯田国道事務所から現状変更に伴う代償措置の一つとして、名勝天龍峡に関わる情報発信施設の設置が提示された。
- ・文化庁から上記提示内容やその他の条件も含める中で、現状変更の同意を得た(H22. 11. 19)
- ・同時期に策定作業を進めていた名勝天龍峡の将来にわたる継承を目的とした「名勝天龍峡保存管理計画」及び「名勝天龍峡整備基本計画」が平成21年度に作成され、その中において、ガイダンス施設の整備の必要性が明確に位置付けられている。
- ・飯田国道事務所と飯田市の協議の中で、ガイダンス施設については市が整備することで合意した。
- ・整備に向けた関係部局等との検討と所管省庁である文化庁との協議を継続的に進めてきた。
- ・ガイダンス施設整備基本計画が文化庁から承認される。(H30. 3)
- ・整備基本計画に基づき基本設計及び実施設計を実施(H31 年度)
- ・文化庁協議終了、国庫補助申請、補助金交付決定等を経て、今年度建築工事等に着手

2. 建設における基本理念等

- ①基本理念：名勝天龍峡の魅力を知り、未来へ継承する周遊拠点
- ②基本方針：名勝天龍峡の本質的価値について展示・解説する。
名勝天龍峡を学ぶ場の拠点とする。
名勝天龍峡を保存管理する人材育成の拠点とする。
名勝天龍峡を中心とした観光案内を発信する。

3. 建物概要

- ◇建物位置：天龍峡温泉交流会館「ご湯っくり」隣(飯田市川路 4996-3、4)
- ◇構 造：木造平屋建 建築面積 114. 10 m²、延床面積 89. 24 m²

4. 展示内容等

- ①展示内容：自然環境を中心とした展示
 - 現地へ誘う展示（中央展示スペース）
 - ・地形模型と映像を組み合わせ、天龍峡見学に必要な道順・視点場・便益施設等の情報を紹介し、来訪者を現地に誘う展示
 - ・映像で天龍峡の優れた景観を紹介し、周遊の気運を高める。
 - ・映像で四季の風景を紹介し、再訪の気運を高める。
 - 天龍峡について、より理解を深めることのできる展示（南エントランス検索コーナー）
 - ・映像主体の平易な展示に加え、天龍峡の本質的価値を構成する要素、生き物、成り立ちや歴史、関連する文化芸術等を詳細に解説する検索装置を設置
 - ・天龍峡について、より理解を深めたい人や再訪者の学習意欲を満足させる展示

○遊歩道と一体化した施設（南/北エントランス）

- ・名勝指定地の中心部、遊歩道の線上に位置し、通り抜けが可能となるよう双方向にエントランスを設置
- ・遊歩道を散策する天龍峡休憩施設及び姑射橋方面からの来訪者双方に「この先に何がある」を伝え周遊を誘う構造

②展示手法およびレイアウト

大画面表示（映像）、地形模型、検索型のタッチパネル（映像手法）、グラフィックパネル、その他の手法

5. 事業費：80,000 千円

国庫補助額：38,162 千円（国宝重要文化財等保存・活用事業補助金 文化庁所管）

- ・国庫補助対象額 76,325 千円 補助率 1/2 国庫補助額 38,162 千円
- ・単独事業費 3,675 千円

6. 施設運営及び維持管理等

①開館時間等

◇9 時～17 時（12～2 月は 9 時～16 時） 休館日：水曜日及び年末年始（12/29～1/3）

※天龍峡観光案内や天龍峡温泉交流館、天竜川総合学習館かわらんべの開館時間等を参考に検討

②人的配置

- ・通常は無人で自由見学（音声及びリーフレット等による案内、解説）

③料金体系

- ・原則無料
- ・時間貸切や展示内容等に対する専門的解説及び講師等が必要な場合は、有料を検討

②施設管理方法

- ・市直営とし管理運営に係る業務（施設開閉、機材運用、館内清掃、セキュリティ、メンテナンス、その他専門知識を要する業務等）において、必要に応じた業務委託を行う。

7. ガイダンス施設を拠点とした学習機能の提供

①地域の学校を対象とした学習

- ・小学校の総合学習や遠足等に際し、ガイダンス施設を活用した天龍峡学習の実施
- ・川路小学校での取り組みとの連携
- ・市内の小中学校へ施設の内容、学習内容等を広報

②市民に対する学習機会の充実

- ・年に数回程度、ガイダンス施設を活用した市民対象の学習会、見学会を実施
- ・テーマは、風致景観、自然（地形、地質、植物等）、人文（歴史、文化等）

※イメージとして先ず施設で学習し、現地を鑑賞・探訪・見学する会

※講師：名勝天龍峡整備検討委員会委員、文化財担当係、美術博物館学芸員、研究者等

③他施設（かわらんべ、美術博物館、公民館等）との連携

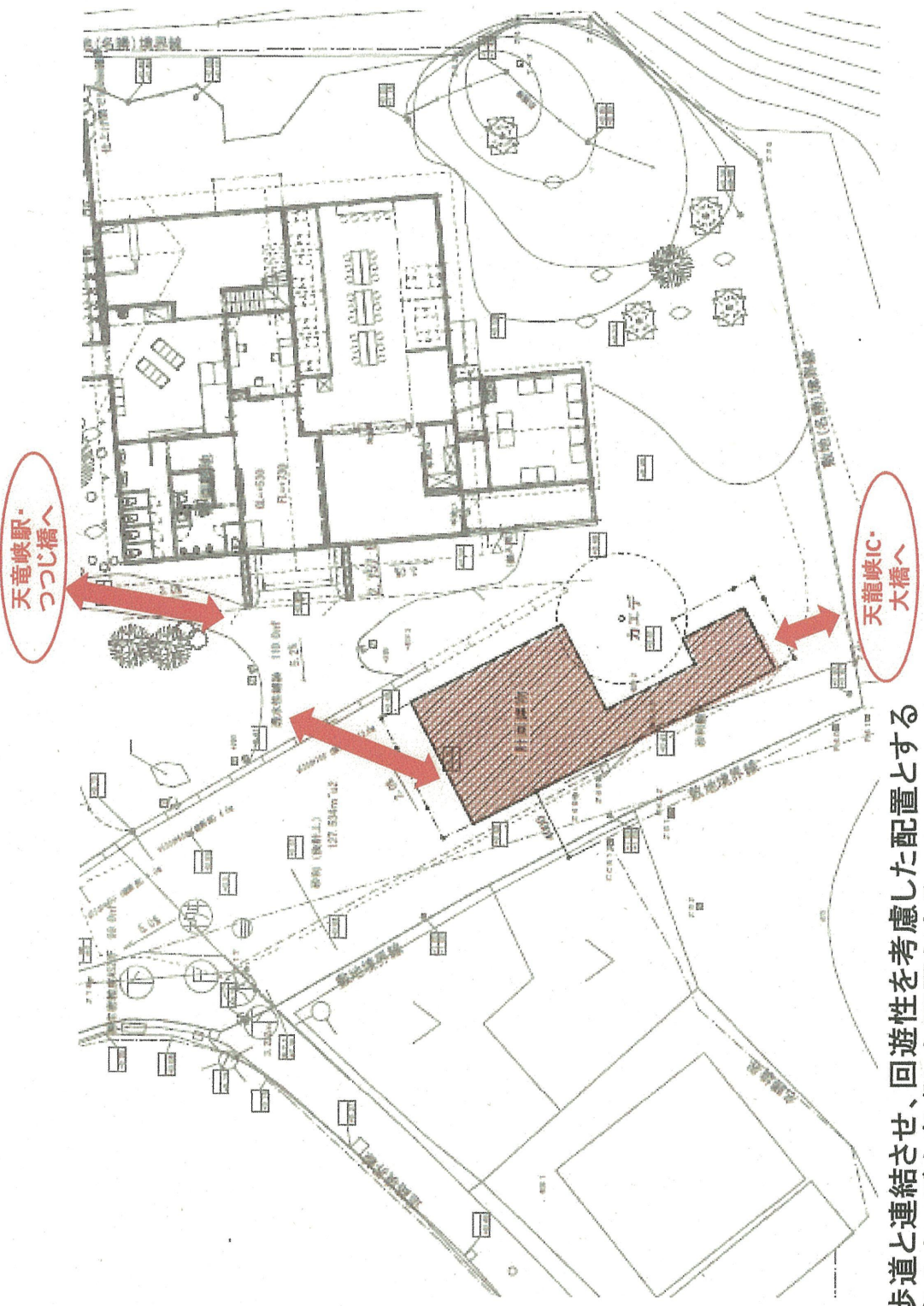
- ・天竜川総合学習館かわらんべの「かわらんべ講座」、飯田市美術博物館の「自然講座」、公民館の「市民大学講座」等との連携を考慮した事業の実施

④暫定オープン及び本オープンに合わせた天龍峡見学会の開催

8. 今後の整備スケジュール

- ・令和元年 6 月 本体工事等着工
- ・令和元年 9 月 ガイダンス施設設置条例案 上程
- ・令和元年 10 月 本体及び展示工事完了（外構工事除く）
- ・令和元年 11 月 暫定オープン
- ・令和 2 年 3 月 外構工事完了後、本オープンを予定

ガイドンス施設配置図



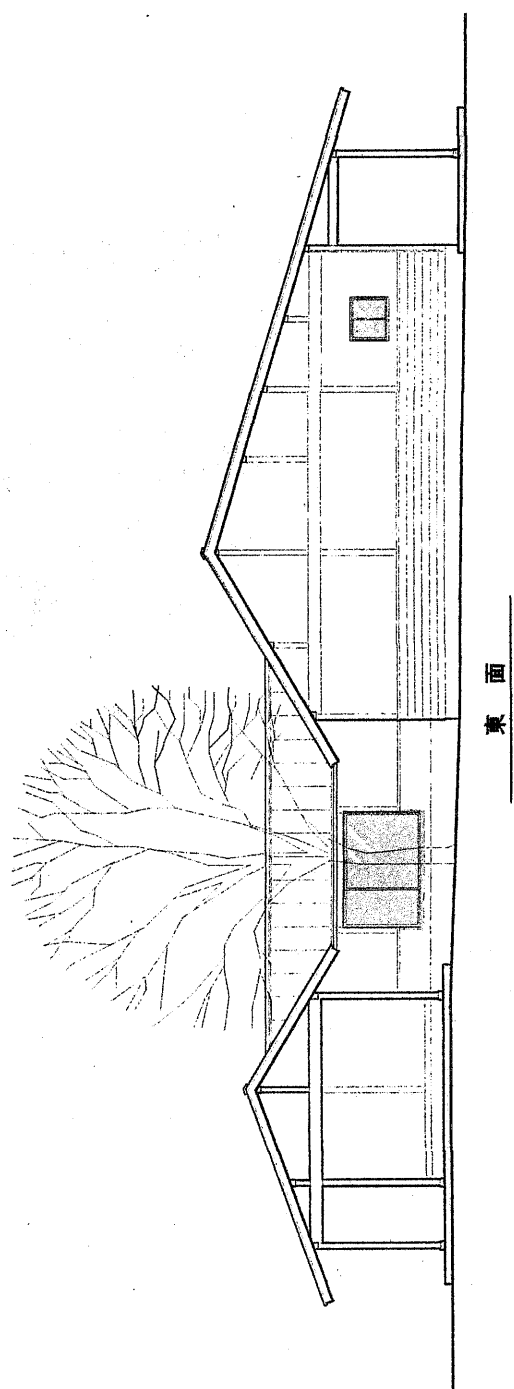
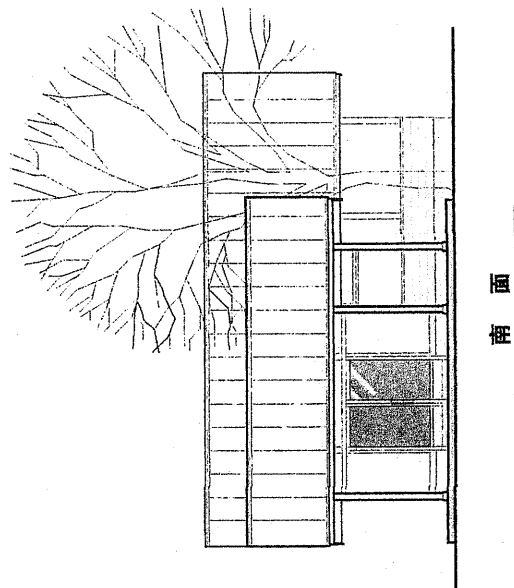
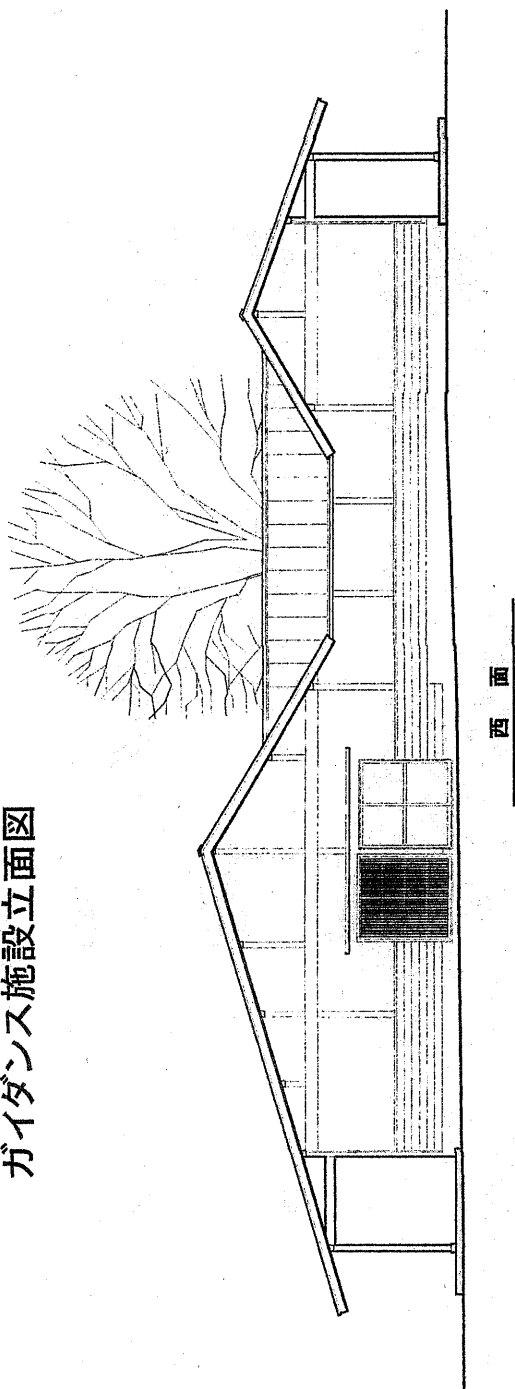
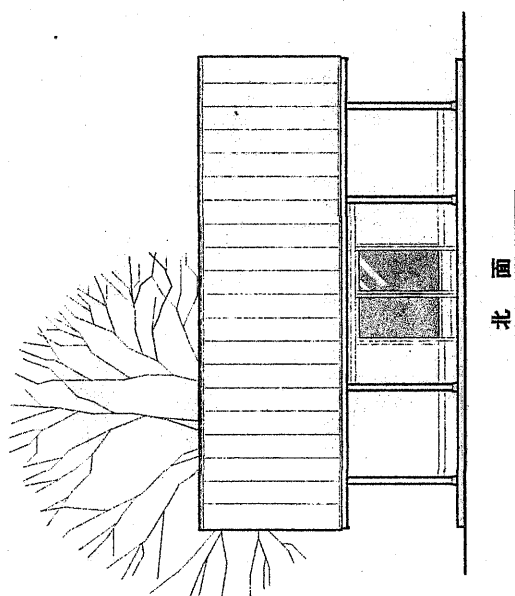
- ・遊歩道と連結させ、回遊性を考慮した配置とする
- ・既存のカエデを考慮した配置とする
- ・トイレ、駐車場などの便益施設は温泉施設と共用する

名勝天龍峡ガイダンス施設整備について



正面完成予想図

ガイダンス施設立面図



- ・木造平屋建て 延床面積89.24㎡
- ・隣接の交流館を考慮した統一感のある構造・色彩とする



中央展示スペース

南エントランス

北エントランス

中央展示スペースは 立体模型／プロジェクションマッピング＋壁面映像で 天龍峡の『本質的価値』を見せる場とする。

プロジェクションマッピング
天龍峡立体模型 + 壁面映像

天龍峡の地形模型と模型を効果的に使い、プロジェクションマッピング手法で、様々な情報を紹介する。それに合わせて運動した映像を壁面へ映し出す。



参考：上田県西軽井沢町（マッピング制作中）

・床面設置
模型縮尺 S=1/600
W2940×D1440
模型寸法 W3940×D2040
模型台



●映像コンテンツ候補

・「峡谷の成り立ち」

アイレベル映像で遊歩道や舟下りで観る事ができる絶景のインテックス的なコンテンツ。直ぐに観に行きたくなく工夫も盛り込みます。



・「四季の移ろい」

峡谷の四季それぞれ表情を紹介して、来客者のリピーターを誘う狙いもあるコンテンツとします。

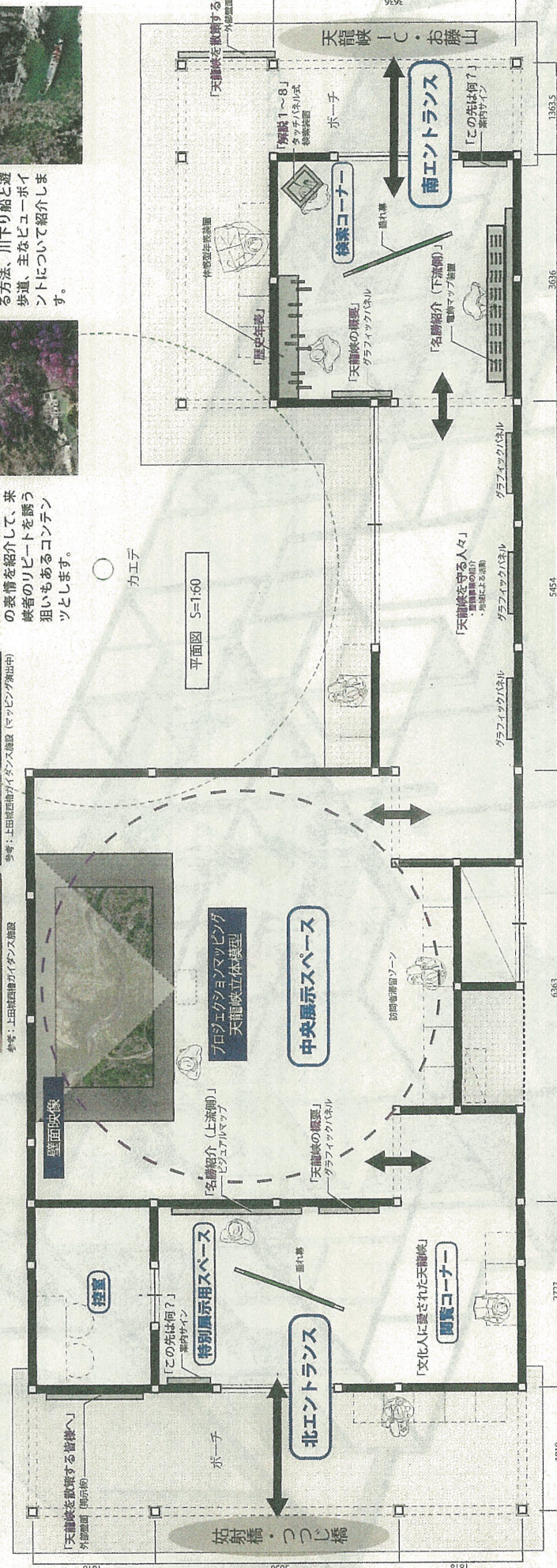


・「天龍峡の見方」

天龍峡の絶景を鑑賞する方法、川下り船と遊歩道、主なビューポイントについて紹介します。



参考：上田県西軽井沢町（マッピング制作中）



●北エントランス展示内容候補

- ・「名勝紹介（下流側）」
ここから先に何かあるかを示す。
- ・「文化人に愛された天龍峡」
冊子にまとめて、備える。
- ・「この先は何？（下流側）」
この先に何かあるかを示すサインを出入口付近に設置する。

●共通展示内容候補

- ・「天龍峡の概要」
- ・「名勝とは？」「天龍峡とは？」
基本的であり素朴な疑問を解説。

南／北の各エントランスは、グラフィックをメインに
散策路の先にある『モノ』を見せる場とする。
また検索装置などによる
データベース／アーカイブ機能も持たせる。

- ・南エントランスは下流側からの訪問者が入って来ると設定し、展示施設から上流の区域の紹介をする。
- ・北エントランスは上流側からの訪問者が入って来ると設定し、展示施設から下流の区域の紹介をする。

●南エントランス展示内容候補

・「名勝紹介（上流側）」

- ・「解説 1～8」
全て閲覧できる、タッチパネル式検索装置。

・「歴史年表」

- トビックスを引き出して見る体感型年表装置。

・「この先は何？（上流側）」

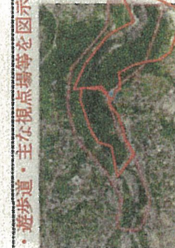
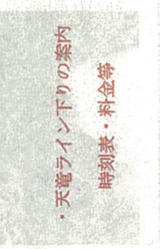
- この先に何かあるかを示すサインを出入口付近に設置する。

中央展示スペースプログラム 天龍峡とは

時間	正面映像イメージ	模型映像イメージ	ストーリーイメージ
0'00"	 ・天龍峡の映像	 ・指定範囲図示	【イントロ】 天龍峡は、昭和9年に国から名勝に指定された、南北約2kmにわたる峡谷の風致景観である。
	 ・周辺地形のきり		天竜川は、中流域で三河高原を廻り込む先行谷となっており、天龍峡はその入口となる峡谷である。
	 ・阪谷朗庵の肖像・石碑	 ・石碑位置等図示	名前は、江戸時代の弘化4年（1847）、山水画を彷彿とさせる峡谷に感銘を受けた漢学者の阪谷朗庵が、峡谷を刻む天竜川に名を得て「天龍峡」と命名した。
		 ・撮影地点を図示	【見どころ】 ○峡谷の深さ・荒々しさ 天龍峡は、深さ70m余り、兩岸が切立った断崖となっており、大きく割れた岩が峡谷を荒々しいものとしている
		 ・撮影地点を図示	○山水画のような風景 高く聳える奇岩断崖に松が生え、その間を流れる大河を舟が下る様は、まさに山水画のような景色である
	 ・主たる十勝の映像	 ・所在地と名称を図示	○天龍峡十勝 こうした奇岩や洞など十カ所に名前が付けられ、十勝と呼ばれて鑑賞上のポイントとされた。
	 ・日下部鳴鶴の肖像・筆書き	 ・所在地と名称を図示	十勝を運定・命名したのは、明治時代に奮闘と呼ばれた日下部鳴鶴であり、十勝には彼の筆による名称の岩影が施されている。

天龍峡の見方

中央展示スペースプログラム

時間	正面映像イメージ	模型映像イメージ	ストーリーイメージ
0'00"	舟下りの映像 	舟下りの出発地・コース等を図示 	【イントロ】 天龍峡の鑑賞方法は、舟下りと遊歩道散策の2つの手段がある。 天龍峡の真の姿を見たいと思ったら川下り舟だ。 天龍峡十勝などをはじめ見所の多くは川面から見る姿であり、崖の上から全てを見ることができない。
	・船から見た動画 ・橋で船音を聞く音、オールの音 	・遊歩道・主な観望場等を図示 	天龍峡を手軽に楽しみたい、或いは時間をかけてゆっくり楽しみたいのであれば、遊歩道が良い。草花の観察や写真撮影などの方に向いている。
	・天竜ライン下りの案内 時刻表・料金等 	・舟下りの受付・出発港・コース等を図示 	【舟下りコース】 姑村橋の上流から出発し、約50分かけて天竜川の峡谷約6kmを下る。 流れに身を任せ、刻々と変化する景色は、舟下りならではの楽しみだ。 天竜川の川下り舟は、全国的に少なくなった木造船で、伝統的な技術を伝えている。
		・舟下りの受付・出発港・コース等を図示 	さあ、舟上ならではの景色と爽快感を味わいに出发してみよう
		・遊歩道・主な観望場・トイレ等を図示 	【遊歩道散策コース】 遊歩道散策は、15分程度のお手頃なものから2・3時間と、好みや時間に合わせて場所を選ぶことができる。 遊歩道上の主なビューポイントを紹介します。
	観望場の眺望等 	・位置・経路・移動時間等 	天龍峡第2・3公園 直ぐ近くにある公園で、春、ヤマザクラやツツジに、秋はカエデに覆われる。 天龍峡の由来を記した天龍峡記が第二公園の頂上にある。
	観望場からの眺望等 	・位置・経路・移動時間等 	つつじ橋 天龍峡のちょうど中央部に位置する高さ20mの吊橋で、峡谷の中心部や南部を眺望できる。

時間	正面映像イメージ	模型映像イメージ	ストーリーイメージ
	観望場からの眺望等 	・位置・経路・移動時間等 	龍角崖上 高さ57mの石柱の上から、峡谷を見下ろせる
	観望場の景色 	・位置・経路・移動時間等 	竜車道 秋はドウダングツツジ・カエデ・広葉樹の紅葉を楽しめる
	観望場の景色 	・位置・経路・移動時間等 	天龍峡第一公園 天龍峡の北側にある明治時代から続く公園で、春のツツジ、秋のドウダングツツジが美しい
	観望場からの眺望 	・位置・経路・移動時間等 	姑村橋 峡谷の北側にある高さ20mの橋で、峡谷の中心部を眺めることができる。
	観望場からの眺望 	・位置・経路・移動時間等 	添架歩廊（仮称） 三連南信自動車道の天龍峡大橋に付随する遊歩道で、川面からの高さは70m。峡谷の南部を見ることができる。
	映像ブラッシュ 	・位置・経路・移動時間等 	【エンディング】 また、峡谷に面した宿泊施設は絶好のロケーションである。 行先は決まったであろうか。ここは名勝天龍峡のど真ん中だ。さあ、スクリーンでは体験できない、峡谷の景色と空気を吸いに出かけよう。

四季の移ろい

中央展示スペースプログラム

000°	正面映像イメージ	模型映像イメージ	ストーリーイメージ
	天龍峡の映像 ・御膳所・御膳所・山桜・八重桜 ・天龍峡の映像 ・天龍峡の映像		ダイナミックな峡谷と自然が優れた風景を造り上げている天龍峡。天龍峡を彩る生き物に目を向けてみよう
		分布・視点場・遊歩道等図示	【春】 3月下旬頃から彼岸桜が咲き始め、染井吉野、山桜、八重桜と、4月下旬頃まで桜が続く。
		分布・視点場・遊歩道等図示	同じ頃、紫色の三つ葉藤が岸壁や公園に咲き始める。
		分布・視点場・遊歩道等図示	珍しい植物として雪柳がある。庭園などの植栽として一般的であるが、天龍峡は川沿いの岩場に自生している貴重な場所である。4月中旬頃、岸壁に白と緑のラインが浮かび上がる。
		分布・視点場・遊歩道等図示	【夏】 GW頃を境に、苔葉が瑞々しい季節となる。
		分布・視点場・遊歩道等図示	○藤 5月上旬に、崖や木々から藤の花が垂れ下がる。明治時代、川下り舟から外国人が称えたのは、甘い香りのする藤の花だった。

正面映像イメージ	模型映像イメージ	ストーリーイメージ
天龍峡の映像 ・天龍峡の映像 ・天龍峡の映像		○サツキ ツツジとよく似ているが、旧暦の五月（今の6月頃）頃に咲く。天龍峡には、貴重なサツキの原種が自生している。
	分布・視点場・遊歩道等図示	○ヤマユリ ヤマユリは乱獲され、野生のものは少なくなかった。天龍峡には自然のヤマユリが残っており、7月下旬頃に、白い大きな花が咲く。
	分布・視点場・遊歩道等図示	【秋】 天龍峡の紅葉は11月だ。アベマキやコナラなどの丸いドングリが、黄褐色に黄葉する。
	分布・視点場・遊歩道等図示	○カエデ カエデは名勝指定直報にも触れられていない。この施設の中庭のイロハモミジは、特に深い赤色に色づく。
	分布・視点場・遊歩道等図示	○ドウダンツツジ 公園には樹齢80年を超す古木が多くみられる。
	分布・視点場・遊歩道等図示	【冬】 飯田は長野県でも南端にあり、晴れが多く雪は少ない。草木の葉が散った冬は、岩肌や松が良く見え、天龍峡の特徴がよく見える季節だ。
	分布・視点場・遊歩道等図示	しかし、2月から8月にかけて、稀に大雪が積もることがある。モノクロになった天龍峡は、正に水墨画の世界だ。
	分布・視点場・遊歩道等図示	【エンディング】 天龍峡は毎日景色が変わっている。今度は別の季節に訪れていただきたい。

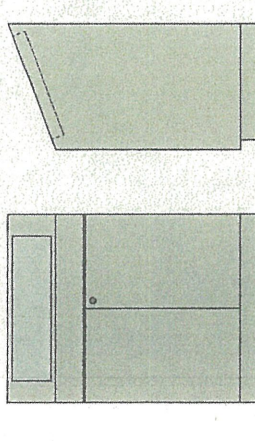
峡谷の成り立ち

中央展示スペースプログラム

0'00"	正面映像イメージ	模型映像イメージ	ストーリーイメージ
	天龍峡の映像	土地の起伏を表す	【イントロ】 名勝天龍峡は、天竜川が深さ70m余りまで掘り込んだ峡谷の風景長観である。
	・穏やかな山地と蛇行する川のイメージ	氾濫原	【伊那谷の形成】 数100万年前、中部日本はなだらかな山地で、諏訪湖辺りを源に天竜川が流れ始めた。
	・左岸の山地が上昇し、続いて、下流・右岸が上昇し、盆地ができる	氾濫原	約200万年前、草からの圧力で赤石山脈が上昇を始め、続いて三河高原と木曾山脈が上昇した。
	・上昇した下流部の山地を川が削り、峡谷となる	氾濫原	三河高原が上昇しても、先に流れていた天竜川は阻まれることなく、山地を削り続けて太平洋へ流れ注いだ。
	・南側から徐々に山地が盛り上がってくるイメージ	段丘が隆起・川幅が狭くなる	【天龍峡の成り立ち】 地殻変動は、三河高原から上流へ波及した。 約10万年前には天龍峡一帯が隆起した。
	・天龍峡北部の断崖	・岩石分布	天龍峡は花崗岩と呼ばれる硬い岩盤で川岸があまり崩れなかったため、狭く深い峡谷となった。

正面映像イメージ	模型映像イメージ	ストーリーイメージ
	川幅が固定される	花崗岩は、大きなサイコロのように割れやすい性質があるため、権無洞や磨鷹壺などといった天龍峡に特徴的な奇岩断崖ができた。
・方状節理を图示	奇岩の分布の解説	その中でも特に硬い岩石の部分は、龍角基となった。
	段丘と氾濫原	一方、天龍峡より上流域は、天竜川の氾濫原が広がっていた。
	川幅・川筋が変わり、南から段丘が形成されていく	土地の隆起と天竜川の侵食により、数段の河岸段丘が形成された。
	ポットホール・窪地の分布図	【エンディング】 このように、天龍峡は天竜川が数万年かけて掘り込んだ峡谷だ。 天龍峡周辺には、川底であった頃に造られたポットホールや、今と異なる川筋であった頃のくぼ地を見ることができきる。
	断崖・粘土層の形成	また、地殻変動を示す断層や、10万年前に堆積した粘土層など周辺に分布している。
		地形地質に関する詳細は、北エントランスの係員で解説している

タッチパネル式検索装置 1台 H800×W600×D400



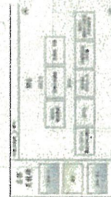
待機画面
一定時間操作を行わないと、待機画面が表示される。
待機画面は画像スライドショー。



目的別メニュー
3つの目的別メニュー、「天龍峡と知る」「知る」「知る」から任意のメニューを選択。



テーマ別メニュー
選択した小分類に紐づいたコンテンツ一覧が、テーマ別に一覧表示。閲覧したいコンテンツを選択。



情報ページ
選択したコンテンツが表示。テキストと画像、動画、写真などによる解説を閲覧できる。



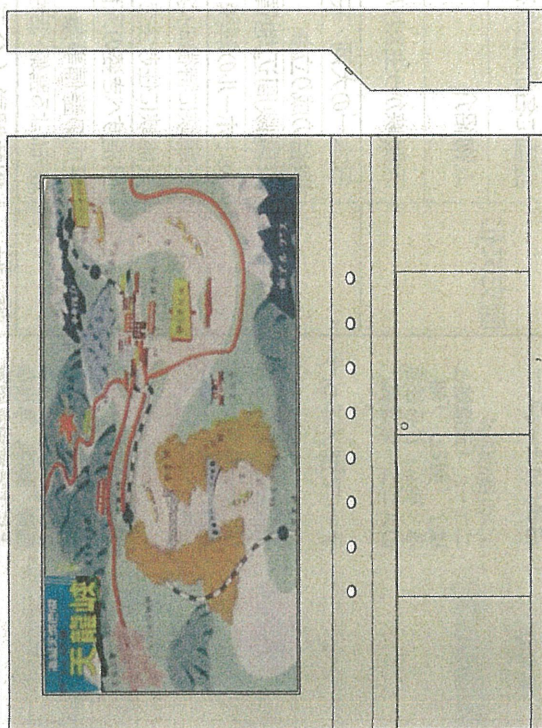
テーマ	情報タイトル	内容等
概要	天龍峡とは	命名の由来、名勝指定の概要、指定範囲、見所概略、龍と竜、名勝とは
みどころ	峡谷の風致景観	地形の説明（地質的なことではない）、峡谷の深さ・狭さ・荒々しさ、山水画を思わせる景観、川と空の対比、流れる景色（舟下り）
	四季の天龍峡	ツツジ類・桜類・雪柳・花祭・新緑・梅雨・ヤマユリ・盛夏・果物・紅葉・冬・降雪 等
	天龍峡 十勝	命名と印刻の経過・日下部鳴鶴の紹介（1P）、十勝の漢詩・意訳・写真・位置紹介
	ビューポイント	姑射橋・つづじ橋・添架歩廊・龍角峯・第一公園・第二公園・遊歩道上・天龍峡記・二条公爵碑等
ガイド	舟下り	舟下りからの映像、天竜ライン下りの案内
	遊歩道とモデルコース	主な視点場までの移動時間・食事処・便益施設・駐車場等の案内／姑射橋往復、姑射橋龍角峯、つづじ橋、龍角峯、添架歩廊、天龍峡周遊コース
	天龍峡付近の行事	天龍峡花祭り・マルシェ・マラソン・やまびこマーチ・時又灯籠流し・初午・今田人形上演
	周辺の観光情報	百年再生館・ICガイダンス・かわらんべ・今田人形芝居・ネズミサシ・古墳・舟下り・ラフティング
	戦前の天龍峡	古写真スライドショー（植生・天竜川水位・舟下り等の解説文あり）
	天龍峡の発見と命名	通船の歴史、関島松泉と阪谷朗庵による命名の経過、天龍峡記の解説
歴史文化	全国に名が知られる	外国人・著名人の来訪、紀行文、報道による周知（アーネストサトウ・パーシヴァルローウェル・コンノート殿下）、「日本避暑地投票」「日本新十景投票」「日本新八景選出」に関わる経過・新聞記事等
	人物紹介	①歴史に関わる人物（阪谷朗庵・関島松泉・日下部鳴鶴・パーシヴァルローウェル・コンノート殿下等） ②天龍峡を訪れた文化人（一覧表示）
	天龍峡から生まれた文化	①紀行文・歌謡：題名・著者・執筆年・天龍峡に変わる部分の部分抜粋 ②小説・漢詩・短歌・俳句・絵画・陶芸等：著者・タイトル等一覧表示
地質	日本一の大河 天竜川	天竜川の由来、概要、天竜海底谷の概要
	峡谷の成り立ち	伊那谷の成り立ち、峡谷の成り立ち、河道の変遷等
	天龍峡周辺地質図	生田花崗岩・天竜峡花崗岩・細粒苦鉄質岩、断層の地質学的な解説と、天龍峡の地形形成における役割
	ポットホルルの解説	ポットホルルの解説と分布図
自然	天龍峡に特徴的な生き物	①景観を構成する植物（松・ツツジ・満天星・桜・雪柳・クスギ等・櫻類） ②珍しい植物（ヤマユリ等）
	天龍峡に住む生き物	分類ごとに一覧
天龍峡を守る	目指すべき姿の天龍峡	戦前の天龍峡の景観、最盛期の天龍峡の賑わいの写真
	平成の整備事業	・森林環境整備・遊歩道整備・公園整備・広場視点場整備等
	地元による整備・活性化事業	・団体の活動の歴史、現在の団体・個人等の紹介
解説	用語解説（インデックス）	50音順に用語が登場するプログラムを表示

展示物イメージ図

南北エントランス

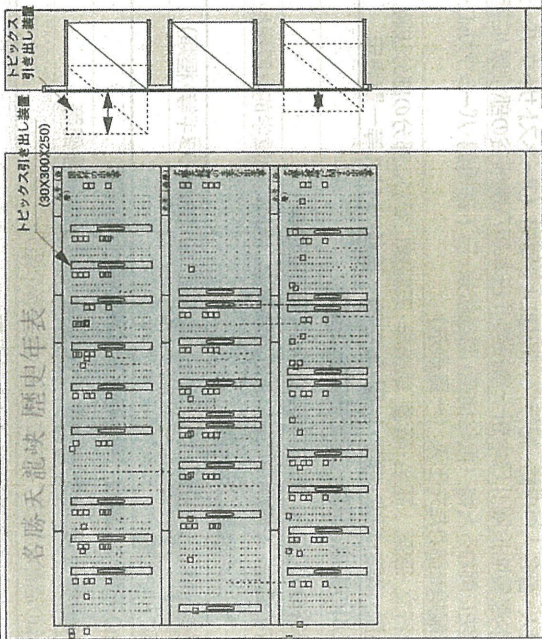
電飾マップ「名勝紹介」

1台 H930 × W1900



年表(引き出し付き)

1台 H1200 × H1700



案内サイン

2台 H4000 × W650



グラフィックパネル

「天龍峡の概要」 2台
「天龍峡を守る人々」 3台
H1200 × W900

垂れ幕

2台 H2000 × W2000



ビジュアルマップ

1台 H1200 × W2000

